

# たまねぎレポート【360号】



平成29年10月26日

阪南青果株式会社

## 社 内 報

9月の平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高かった。西日本では低かった。北・東日本は平年並みであった。降水量は、西日本の日本海側と沖縄・奄美で多かった。東日本の太平洋側では少なく、北日本、東日本の太平洋側と西日本の太平洋側では平年並みであった。日照時間は、北・東日本の日本海側でかなり多く、東日本の太平洋側と沖縄・奄美で多かった。西日本は少なかった。

10月は寒暖の差が大きく、秋晴れの日が平年に比べて少なく、22日には大型台風21号が接近上陸し、近畿を始め各地で大雨による被害が発生した。

気象庁が発表した11～1月の3か月の月別予報は次の通り。

11月、北・東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。西日本の日本海側では、曇りや雨の日が少ない。北日本と東・西日本の太平洋側では、晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、月後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

12月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の

日が多い。西日本の日本海側は平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、曇りや雪の日が多い。太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では、晴れの日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では、晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## 需要(市場)の動き

### 野菜の概況

9月の建値市場の野菜の入荷は、福岡市場以外は前年を上回った。平均単価はいずれの市場も前年比安であった。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比102%で、平均単価はkg¥162前年比81%(前月比92%)。東京市場は前年比104%の入荷で、平均単価はkg¥240で前年比89%(前月比97%)。名古屋市場は前年比107%の入荷で、平均単価はkg¥223前年比90%(前月比97%)。大阪本場は前年比105%の入荷で、平均単価はkg¥236で前年比89%(前月比103%)。福岡市場は前年比99%の入荷で、平均単価はkg¥188で前年比90%(前月比98%)となっている。

9月の玉葱の入荷は、いずれの市場も前年をかなり下回った。府県物が前年を上回ったものの、主力の北海物の大幅減が影響した。北海物は市況安から出荷がかなり後ズレしたものと考えられる。入荷減ながら、何処の市場も荷動きが鈍く、価格は前年比大幅安であった。市場別に入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比74%(前月比97%)、平均単価はkg¥71前年比53%

(前月比92%)。東京市場の入荷は前年比96%(前月比105%)、平均単価はkg¥77前年比61%(前月比88%)。名古屋市場は前年比84%(前月比135%)の入荷で、平均単価はkg¥71前年比63%(前月比85%)。大阪本場は前年比75%(前月比78%)の入荷で、平均単価はkg¥78前年比59%(前月比92%)。福岡市場は前年比85%(前月比110%)の入荷で、平均単価はkg¥100前年比74%(前月比93%)となっている。

日本農業新聞社が独自集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の9月の販売量は、100,145トン前年98%(前月比110%)、平均単価はkg¥139前年比83%(前月比102%)となっている。販売量が前年比増となっているのは、ニンジンの前年比52%増を始め、ホウレンソウが35%増、ネギが22%増など7品目。前年比減となっているのは、タマネギの前年比23%減を始め、レタスが12%減、トマトが11%減など6品目。価格が前年比高となっている品目は、トマトがkg¥425で前年比32%高、ハクサイがkg¥91で7%高、ピーマンがkg¥317で5%高の3品目。前年比安となっているのは、ニンジンがkg¥75で前年比73%安、バレイショがkg¥88で44%安、タマネギがkg¥72で36%安など11品目となっている。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷は、137,023トン前年比104%(前月比109%)。平均単価はkg¥240前年比89%(前月比97%)であった。主要品目で入荷が前年比増となったのは、ホウレンソウが前年比137%、ニンジンが136%、生シイタケが126%など11品目。前年比減となったのは、トマトが85%、タマネギが96%、ピーマン・レタス97%など4品目。販売単価が前年比高であった品目は、トマトが前年比130%ハクサイが114%、ピーマンが111%など3品目。他方、前年比安であったのは、ニンジンが前年比30%、タマネギが61%、バレイショが64%など12品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	137,023	104	109	240	89	97
た ま ね ぎ	10,651	96	105	77	61	88
キ ャ ベ ツ	17,258	102	105	93	97	113
だ い こ ん	11,768	105	125	97	72	115
は く さ い	10,701	102	155	103	114	118
レ タ ス	9,391	97	92	175	76	104
に ん じ ん	8,657	136	114	82	30	115
ば れ い し ょ	7,949	107	126	108	64	87
き ゆ う り	7,790	102	101	238	90	78
ト マ ト	7,238	85	87	429	130	129
か ぼ ち ゃ	3,516	109	126	136	69	63
れ ん こ ん	869	104	173	495	93	84
な が い も	784	84	90	476	108	97
に ん に く	234	92	91	1,032	94	97

### 玉葱の概況

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は、10,651トン前年比96%（前月比105%）で、減少傾向であった。主力は北海物で、入荷は9,872トン前年比99%、占有率は93%で前年比3ポイントアップ。中国物が378トンの入荷で前年比40%、占有率は4%で前年比5ポイントダウン。兵庫物の入荷は153トン前年比117%、占有率は1%で前年比同じ。平均単価はkg¥77前年比61%（前月比88%）で続落歩調であった。産地別の平均単価は、北海物が

kg ¥ 76前年比59%、中国物はkg ¥ 70前年比83%。兵庫物はkg ¥ 126前年比53%となっている

10月に入って、野菜の出回りは9月の好天続きを受けて、潤沢な出回りとなり、市況は3割前後値下がりました。玉葱は北海物主導の販売となったが、市況は予想外の安値に落ち込んだために、産地の出荷意欲が喪失したことや、中旬には北海道産地が出荷調整を試みたことから、入荷は減少傾向となった。荷動きに目立った変化は見られず、販売環境の厳しさは改善されなかったものの、各社の手持ち在庫は減少傾向となった。下旬には上中旬の日照不足で、葉茎菜類を始め、多くの品目で出回り減が懸念されたことに加え、台風の接近で市況は値上がりに転じたが、玉葱は蚊帳外の動きであった。今週に入り、産地からの要望価格はL大 ¥ 1,600、L ¥ 1,300、M ¥ 1,000に値上がりしたのを受けて、荷受各社は価格維持に努めたが、荷動きは鈍化傾向となった。上旬の販売量は3,126トン前年比102%。北海物は2,940トン前年比102%、平均単価はkg ¥ 75前年比81%。中旬の販売量は3,363トン前年比84%。北海物は3,206トン前年比84%、平均単価はkg ¥ 75前年比89%で横這い推移となっている。下旬の野菜は、全般に値上がり歩調となったが、玉葱は価格維持が精々で、出荷調整が続かない限り、荷余り現象は改善されそうにない。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は、5,487トン前年比84%（前月比134%）で、減少傾向であった。主力は北海物で、例年同様北海物の独断場となった。北海物が入荷は5,357トン前年比83%、占有率は98%で前年比1ポイントアップ。兵庫物は47トンの入荷で前年比1465%、占有率は1%で前年比1ポイントアップ。愛知産は41トンの入荷で前年比32倍。平均単価はkg ¥ 71前年比53%（前月比85%）、総じてはちり貧相場で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥ 71前年比63%、兵庫物はkg ¥ 98前年比44%、愛知産はkg ¥ 68前年比70%となっている。

10月に入ってから、荷余り傾向が続いたが、産地の出荷調整で入荷は減少傾向となった。入荷減で需給は多少改善されたものの、手持ち在庫があり、品薄にはならなかった。拡販には特売価格が求められるが、採算割れ販売は会社のご法度なので、価格維持に努めながら少量販売を続けている。出荷調整で現在の在庫は、ランニングストックの正常量に減少し、他市場からの流入もなく、まずまずの荷動きだが、値上げ販売が出来る環境ではない。上旬の販売量は前年比94%、平均単価はkg¥72前年比80%であった。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は、2,571トン前年比75%(前月比78%)で、大幅減であった。市況安で北海物の入荷が後ズレしたことが販売減となった。主力は兵庫(淡路)物から北海物に移行した。北海物の入荷は1,766トン前年比60%、占有率は69%で前年比17ポイントダウン。淡路物は729トンの入荷で前年比174%、占有率は28%で前年比16ポイントアップ。長崎物が38トンの入荷で前年はなし、占有率は1%。平均単価はkg¥78前年比59%(前月比92%)で、軟調で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥71前年比61%、淡路物はkg¥98前年比39%、長崎物はkg¥43となっている。淡路物は、月後半は即売物と冷蔵物の併売となったが、即売物の品質が良好で冷蔵物と同値の価格帯であった。

10月に入って、北海物の入荷にバラツキがあり、入荷は減少傾向となったが、先安ムードが漂い引き合いが弱く、荷動きは鈍化傾向となった。その後、北海道産地が出荷調整に入るとの情報伝わり、荷受け各社はL大¥1,300以下の販売を止めた。ために、在庫増を招いたが、中旬には出荷調整で入荷減が続き、在庫は徐々に減少し、相場は底値固めから回復の気配に転じた。今週に入り下値切り上げ傾向が強まり、下値の銘柄が少なくなり、L大¥1,600~1,400の販売となった。淡路の冷蔵物も、商系の多くが採算割れの出荷を抑えたことで、10月相場は9月をやや上回る水準で推移している。冷蔵物は、近

年希少価値化やこだわり筋の上物志向で、昨年などは北海物の安値を尻目に北海物の3~4倍もの高値で推移したが、今年は2倍以下で昨年の面影はない。上旬の入荷は前年比77%、平均単価はkg¥73前年比78%。うち北海物は前年比69%の入荷で、平均単価はkg¥66前年比80%。淡路物は前年比195%の入荷で平均単価はkg¥105前年比38%。中旬の入荷は前年比86%、平均単価はkg¥74前年比84%。うち北海物の入荷は前年比76%、平均単価はkg¥68前年比93%。淡路物は前年比187%の入荷で、平均単価はkg¥105前年比38%となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱の販売量は、3,678トン前年比85%（前月比116%）で前年比減前月比増であった。主力は佐賀物から北海物に移行した。北海物の入荷は1,592トン前年比51%、占有率は43%で前年比29ポイントダウン。兵庫物は655トンの入荷で前年比157%、占有率18%で前年比6ポイントアップ。長崎物は596トンの入荷で前年比127%、占有率は16%で前年比5ポイントアップ。平均単価はkg¥100前年比74%（前月比91%）で弱保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥77前年比57%、兵庫物がkg¥143前年比159%、長崎産がkg¥90前年比84%となっている。

10月に入って、安値ムードからの脱出を目指して、主力の北海物は極力高値販売に努めたが、在庫を抱え込んでしまった。長崎、兵庫物は注文に応じ必要量を調達して販売をしている。北海物はホクレンの出荷調整で需給が改善されると期待したが、今も在庫を持ちながらの販売を続けている。値上げ販売を志向しているが、値上げを試みると買参人から買いを手控えられ、荷余り傾向のなか厳しい販売を続けている。上旬の販売量は前年比97%、平均単価はkg¥91前年比77%。中旬の販売量は前年比54%、平均単価はkg¥81前年比69%となっている。

## 10月23日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

### 【札幌市場】 入荷182トン、強い

北 海 20kgDB2L¥1,700～1,170、L大 ¥1,700～1,000、L ¥1,300～1,000、  
20kgNT2L¥1,200～1,100 L大 ¥1,050～1,000、L ¥1,050～1,000、  
" M ¥650 ～ 550。

### 【太田市場】 入荷223トン 強保合

北 海 20kgDB2L¥1,500～1,300、L大 ¥1,600～1,300、L ¥1,300～1,200、  
" M ¥1,000～ 900。

### 【名古屋北部】 入荷80トン、保合

北 海 20kgDB2L¥1,500～1,300、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,300～1,100、  
" M ¥1,000～ 900。

### 大阪本場】 入荷94トン、保合

北 海 20kgDB2L¥1,600～1,400、L大 ¥1,600～1,500、L ¥1,300～1,200、  
" M ¥1,000～ 900。

兵 庫 10kgDB2L¥1,200～1,000、L ¥1,200～1,000、 M ¥900 ～ 800。

### 【福岡市場】 入荷 568トン、保合

北 海 20kgDB2L¥1,500～1,400、L大 ¥1,500～1,300、L ¥1,300～1200、  
" M ¥1,000～ 900。

香 川 10kgDB2L¥1,600～1,400、L ¥1,600～1,400、 M ¥1,200～1,000。

## 供給(産地)の動き

府県の冷蔵物の在庫は、全玉連の9月8日時点の調査で23,800トン前年比168%。産地別では兵庫(淡路)が21,560トン前年比168%。佐賀が600トン、1,200%、香川が560トンで200%、愛媛が340トンで100%。大阪・和歌山200トンで100%となっている。現在、市況は採算割れの安値水準で推



移しているが、主力産地の淡路の出荷は出荷者毎にまちまちであるが、総じては計画通りの模様である。

北海道では、極早生の出荷が終了し早生種に移行している。ホクレンでは、8月末までの出荷は、計画通りの41,000トンで前年比116%と報告しているが、7～8月の市場側の販売量は前年を下回っており、途中で滞貨滞留していることになる。生産量は豊作であった前年を2～3%下回ると見られている。9～10月は市況安で出荷が後ズレ傾向となっている。通期の出荷・販売量は前年を下回ると予想されるものの、10月末の産地の在庫量は前年並みかやや下回る程度と見ている。

輸入は、安値市況が続いていることから、9月以降は大幅減になると予想している。ただ中国物だけは、安定した数量と値ごろ感から、加工筋では定番化し、引き続き応分の入荷が続くと見ている。

### **府県産地**

府県産の冷蔵物は、淡路主力で香川、愛媛が次ぐ構図である。今年は入庫時の産地相場が値ごろであったことで、前年比7割増となった。従来秋冬期の市場では、こだわり筋の需要に支えられて、北海物に比べて市況は3倍以上の高値水準を維持したが、近年では北海物との価格差が縮小し、冷蔵物に対する期待度は低下傾向にある。現在の市況水準は、北海物に比べてかなりの割高ではあるものの、採算割れか採算ぎりぎりの線の上にあり、総じて出荷は後ズレ傾向にある。淡路では、出荷の進捗率は出荷者毎に前進化、後ズレまちまちであるが、総じては予想通りで、品質的にはロス率が少なく、小売店のたなもちも好評である。

府県の各産地では、現在次シーズンの育苗期にあり、今のところ苗立ちは順調である。播種動向は、早生系が増加、晩生系が減少傾向である。

### **北海道産地**

全道的に増反傾向で、道庁の市町村別の作付は、ホクレン作付・生産動向

の数値を大幅に上回っている。生産性の関係で、他の作物から玉葱に転作する農家が増えており、種子の手当てが多様化している。今年の作柄は、いずれの地域にも部分的な、水焼け(湿害)があり、地域別、圃場別に多少の作柄格差が見られたが、総じては平年作をやや上回ると見ている。いずれの地域も数十年も連作している圃場の作柄は見劣りする。病害の発生は空知に多く、網走は少ない。極早生は格別の発生が多く、空知の早生には乾腐病が発生した。中晩生は品質良好で、既に倉入れ作業が始まっている。現在、市況水準は再生産価格を割っており、輸出等需要喚起が叫ばれているが、産地の表情は暗い。

### 外国産地

9月の輸入は速報値で、19,677トン前年比69%(前月比78%)で大幅な減少である。国別では中国が19,506トン前年比73%。アメリカが145トン前年比7%。ニュージーランドが26トン前年比51%となっている。ニュージー物で日本到着後売れ行き不振で再輸出された品物もある。

中国、9月も主力産地は甘肅省である。8月中旬に韓国の買い付けが急増し、産地価格は値上がりしたが、その後は引き合いが鈍く、産地価格は下落した。今週に入り価格はやや値上がり傾向にある。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・ムキ玉 \$7.60、皮付き \$6.40 である。

アメリカ、10月1日現在の現地在庫は、前年比89%と報告されている。アイダホ・ワシントンなど主力産地の減収で、大玉が品薄傾向で堅調な相場展開となっている。現在の価格は50㍍・C&F・J・ \$13.50、SJ・12.50、M \$10.50 の水準でかなりの高値である。

### 11月の市況見通し

主力の北海道産地が倉入れ期に入り、安定量の出荷となるほか、出荷調整が容易になる。市況は10月に底値打ちとなったが、在庫量は昨年と大差なく、需要増が発生しない限り厳しい環境が続くと思う。輸出の成約が進んでいると

の情報があるが、規格は2L、L大で価格的数量的に厳しさがある。出荷調整による人為的な供給減や天候異変による他野菜の出回り減などで、ある程度の市況の回復は望めるものの、根本的な需給の改善にはならない。今後も北海道産地の増反傾向が続くなかで、供給過剰は避けて通れない。適正価格を維持するのは需要増か生産減かのいずれかである。11月は出荷調整が続行されれば需給の改善で、20kg・L大¥1,600～1,400。調整がなければ¥1,400～1,200。府県の冷蔵物は10kg・L¥1,200～1,000の予想。(了)